

令和7年度 医療事故等行為別件数及び障害区分レベル4・5の概要

(1) 医療事故等 行為別件数

行為別	レベル	インシデント			
		0	1	2	計
薬剤		121	456	68	645
輸血		87	10	1	98
治療・処置		16	48	39	103
医療機器等		15	21	11	47
ドレーンチューブ		4	86	207	297
検査		45	165	74	284
療養上の世話		16	624	323	963
その他		90	113	3	206
計		394	1523	726	2643

アクシデント			
3	4	5	計
2	1	0	3
0	0	0	0
3	1	0	4
0	0	0	0
8	0	0	8
2	0	0	2
23	0	0	23
0	0	0	0
38	2	0	40

合計 2683

障害区分(レベル)	内 容	
インシデント	レベル0	事故が起こる前に気がついた場合
	レベル1	事故が起こったが、影響がなかった場合
	レベル2	事故により、軽微な処置・治療(消毒、湿布、鎮痛剤投与など)を要した場合
アクシデント	レベル3	事故により、処置・治療を要したが、永続的な障害が残らなかった場合
	レベル4	事故により、永続的な障害が残った場合
	レベル5	事故による死亡

(2) 医療事故 障害区分レベル4・5の概要

NO.	レベル	事例の概要および対応	
1	4	概要	頸動脈高度狭窄に対して頸動脈ステント留置術を予定した患者に対し、医師から継続指示がある抗血小板薬を入院前面談時に説明担当者が休薬する説明を行った。休薬1週間後患者は胸痛を訴え救急搬送され心筋梗塞と診断された。緊急カテーテル治療により血行再建術が施行され、リハビリを経て日常生活への復帰は可能となったが、心機能の低下がみられた。
		対応	入院前面談のプロセスの見直しと休薬や外来での指示の方法や情報の確認、連携方法について検討、変更を行っている。
2	4	概要	壊死起因性抗がん薬点滴治療中に右上腕部に血管外漏出をきたし、皮膚および皮下組織の深部まで損傷した。その後、該当部位で炎症が生じ、入院期間延長となった。
		対応	血管確保が困難な患者においては、これまで実施してきた対策に加え、複数人で治療開始前に安全な血管選択の方法を十分に検討し、計画的に化学療法を実施する対応体制とした。また、滴下不良など血管外漏出を疑う状況にも適切に対応できるよう、関連マニュアルを改訂し、院内医療者に情報共有を行った。